安平町の防災
～図上訓練の実施～

9月1日は防災の日。

この日が防災の日となった由来は大正12年の「関東大震災」とされていますが、この時期に台風などの自然災害も多いので、現在は防災の日を含めた1週間を「防災週間」として防災思想の普及、防災訓練等の行事を実施します。

災害が少ないと思われがちな安平町ですが「備えあれば憂いなし」と日ごろからの準備や確認は重要です。

9月2日に実施された「図上訓練」は、今までに無い机上での訓練でしたが参加者のみなさんはいろいろと考えさせられる内容の1日だったと思います。

佐々木貴子准教授
北海道教育大学教育学部札幌校で家庭科のほか防災教育を担当する。
主な著書「災害時の調理　家庭科におけるペットボトル・お茶パックなどを利用した炊飯教材の開発」がある。

午前の部は佐々木先生から防災についての講演です。

「防災は、大きな災害の発生のたびに新しい考え方や対策が施されているのが、個人や地域で備えることがなによりも大事。特に水の確保は飲んだり使うものが多くとても重要」

10時　講話：わが町再発見「災害図上訓練の手法を用いて」

11時40分　昼休　カレーライスの試食

12時40分　イメージ訓練

15時　図上訓練

カレーはご飯の量も均等に皆さんに配給。
（赤十字奉仕団安平分区）

炊き出し訓練

自衛隊の協力による
炊飯

体験・展示ブース

①

②

③

①煙体験
②初期消火
③非常食

図上訓練は、個人情報を記入ではなく、「赤ちゃんがいる」「お年寄りひとり世帯」などを色分けし、自分が避難する際にでも安否確認や救助ができるようなことを考えて記入する。

こんな物を用意しておくと良い？

懐中電灯・ラジオ・水・非常食などを常備することが一般的に言われていますが、家から逃げる際にはメガネやガラスを踏まないようにスリッパ（新しい靴）を手元に用意しておくことや、避難所生活などを考えると毛布や防寒具といった寒さ対策、入れ歯なども「忘れないで」と説明されていました。

震度6弱の地震発生！

～その時あなたはどうする？～

「家族に声をかける」
「落ち着けと声をかける」
・・
避難する前に何をする？
「食事を摂る」
「ブレーカーを落とす」
「逃げたことをわかるように張り紙をする」

これはイメージ訓練で出された主な意見のうちでとても「大事」なことだそうです。

こんなときに食事？と思いますが「こんなときだからこそ食事をしておこう」だそうです。

●災害時の防災活動は、役場や消防機関などで全力を挙げて行います。

実際には、通信手段の混乱や救助側の分散などで、防災活動が十分に行えないことも考えられます。

そんなとき、頼りになるのは〝ご近所の方たち〟です。

「私のところは役場（消防）の人が住んでいるから大丈夫」と思うのは大きな間違いで「一番当てにならない人」として認識してほしい。（出動して不在であるため）

日ごろから地域でコミュニケーションを図り、災害に備えることが大事なことです。

はじめての試みの「図上訓練」は広報で伝えきれないほどの良い内容でした。

「参加した価値あり」と思えた訓練でした。